

蕪山高校創立 150 周年記念美術展

ごあいさつ

我が母校の学祖である江川坦庵公は幕末の卓越した統治者、指導者、実践者でした。

幼少期より父・英毅の薫陶を受け、剣術、書、儒学、漢詩はもとより、蘭学、天文学、測量学、和算、兵法、砲術そして林業や刀剣制作またのちに種痘の実施やパン制作、さらにはお台場や反射炉建造等々、実に幅広く学び、その多彩な能力を実践し多方面にわたる数々の足跡を残しました。芸術の分野では雅楽もたしなみ、父も認めたその画才に於いては大国土豊や谷文晁を絵の師匠としてさらにその画力を伸ばしました。

まさに文武両道の「勝海舟が絶賛し、福沢諭吉も憧れた幕末の巨人」でした。

坦庵公の芸術家としての系譜はこの伊豆の地の母校に根付き、その後 150 年にわたり多士済々の芸術家を輩出してきました。

この間芸術の領域も時代と共に、表現の思想、手法、手段、場といった要素が大きく変化、拡大し、特に情報化の時代に入ったここ 20～30 年の環境はめまぐるしく変化してきました。

今回はこれまで母校に寄贈された作品群に改めて光を当て再発見の機会を設けるとともに、現代アートにも着目し、新たな分野を切り開いている石橋素氏（高46）の活動紹介を企画いたしました。

新旧のそれぞれの作品、活動を堪能、お楽しみいただければ幸いです。

最後に本美術展開催にあたりまして、作者の皆様はもとより、ご理解ご支援をいただいた本校関係者の皆様、そして今回の企画にご理解をいただき、ご多忙の中本展のための動画をご提供いただくなど多大なご協力をいただいた石橋素様には、実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。

なお、作家紹介は 120 周年記念美術展の図録等を参考、引用させていただきました。

令和 4 年 10 月

蕪山高校 150 周年記念美術展

実行委員長 森崎 祐治

韮山高校創立 150 周年記念美術展 展示作品一覧

自画像	日本画	江川担庵（学祖）
大正十二年書	書	江川英武（町村立伊豆学校 初代校長）
長崎からの富士	水彩	彦坂繁三郎（静岡県立韮山中学 図画・習字教諭）
風に向かいて	木彫	彦坂繁三郎（静岡県立韮山中学 図画・習字教諭）
精	木彫	彦坂繁三郎（静岡県立韮山中学 図画・習字教諭）
春日	日本画	森鴉光（静岡県立韮山中学 美術教諭）
	* * * * *	* * * * *
コモ湖畔	油彩	栗原忠二（中 3）
白雪	日本画	近藤浩一路（中 5）
西瓜番	日本画	近藤浩一路（中 5）
冬の山	油彩	柏木俊一（中 15）
人魚	リトグラフ	澤田政廣（中 18）
ふくろう	木彫	和田金剛（中 30）
心眼	書	佐野丹丘（中 47）
梨のある静物	油彩	赤堀尚（中 48）
白い手袋の女	油彩	赤堀尚（中 48）
下町の本屋	油彩	水口満（中 50）
青春のための三部作	木彫	杉山明博（高 13）
苦惱	木彫	下山昇（高 14）
染付芒草大壺	磁器	長島豊彦（高 14）
青磁豌豆彫文大皿	磁器	長島豊彦（高 14）
種に還る果実_III	ブロンズ	鈴木丘（高 18）
トルソ	テラコッタ	坂本雅子（高 21）

特別映像展示

石橋素（高 46）